

第5回こうれい研まつり「天神から西鉄電車で九博へ行こう」

- 07.10.7 実施 建築物特定施設の構造及び配置に関する基準 調査報告 -

A. 出入口

風除室

車いすを押しながら、
3人並んで通行可能



入口

扉は、3枚引き戸
開口 1800mm を確保



B. 階段

幅・手すりの確認

幅 1400mm 2320mm



けあげ・踏み面寸法

けあげ 160 150

踏み面 300 310



段の視認性

踏み面と段鼻が同色のため、
段差がわかりにくい。



C. エレベーター

幅・奥行の確認

開口 800mm 1000mm

奥行 1350mm 1500mm



操作板

低位置にある操作盤。
雑踏のせいで、音声案内
が聞こえづらい。



見込み

枠の見込みが深い為に、視覚
障害者の方が、ぶつかりそう
になった。



D. エレベーター

D. 便所

幅
幅 800mm 920mm

車いす利用者用便房
オストメイト、ベビーベッドの配置
介助用ベッドの設置が望まれる。

小便器
自動水洗、手すり



車いす利用者の使用状況

利用状況

広いスペースで、車いすの
寄り付きや、介助者のス
ペースも確保

移乗状況

手すりにつかまり、移乗可能。

みんながじっとみてるから
はずかしい。。



視覚障がい者のコメント

洗浄スイッチの位置

スイッチの位置がわかり
にくい。

ペーパーホルダーの位置

移動時に手が当たる。ブース毎
にアクセサリ配置が変わることに、
戸惑う。

洗浄表示



E. 通路

動線の交錯

4階に上がる人、特別展示室、休憩スペース、ボランティアの人の動線が混じる



動線の交錯

スタッフの配置により、案内、誘導を行う。



動線の交錯

山笠観覧者と館内移動者の動線が交錯するため、客だまりができる。



F. 窓口

カウンター窓口

自動発券機が、未使用のため、カウンター前に人たまりができる。



ローテーブル

物を置いて、利用されてない。



自動発券機

カウンター対応



G. 案内設備、その他

点字サイン

案内板が可動式のせいか、案内図と現状の位置が違う。



案内図

点字表示をしているが、視覚障害者の4%程度しか、読めないとのこと。



案内サイン

木の陰になって見にくい。



誘導ブロック

館内では、誘導ブロックの敷設はない。



4階展示室

高さが低いため、足がぶつかった。



まとめ

当施設は、平成 15 年に竣工したこともあって、まだ、新しく、いたる所に細かな配慮が見られた。その中で、一番気になったことは、動線が、混在しているところである。

まずは、1 階部分。現在、山笠を飾っている場所に人が溜まる。その後ろを通り、エスカレーターに乗って 3 階へ向かう人々。降りてくる人々。

3 階では、特別展示室に向かう人、出てくる人。4 階に向かう人、降りて行く人。休憩スペースに向かう人、3 方向に流れる人。案内スタッフ。

入館者数が、多くなる土・日などは、この動線が入り乱れ、混雑 疲れ イライラに発展するようになる。

バリアフリー関連についての、是非の判断はつけがたい。

九州国立博物館設立に向けて、地域住民や企業、行政など、たくさんの人々による、長い準備期間や様々な取り組みが行われてきたことが、ハード面ではなく、ソフト面でのマンパワーを重視した、現在の運営方法に至っていると思われる。300 人を超えるボランティアを中心に、運営がなされていることは、本当に素晴らしい。

そのため、誘導ブロックも限定された部分だけにとどめ、常設展示場も、暗いと認識していても、当初からの展示コンセプトを大切にしている。

車いすの貸し出し可能台数も、自走式 15 台、電動 1 台、リクライニング 1 台と、他施設では見受けられないほど充実している。

しかし、このようなコンセプトが周知されていないのも事実で、各障害者団体の意見は厳しい。

今後も、すべての人が、安全で、快適に過ごせる環境づくりの取り組みを、九州国立博物館が、先頭に立って行ってほしいと思う。